



1980年代



2017年

《 富山駅前 》

1980年代後半、マリエ、エスタのオープンで富山駅前の表情が一変しました。移転した交番の隣には、飲食店の入る山荘風の建物も登場しました。2015年、北陸新幹線開業で富山駅舎も一新され、駅前の表情は再び大きく変貌しました。



1980年代



2017年

《 富山駅前（桜町・新富町） 》

1990年代前半にかけて、再開発ビルや広場（現CiC前広場、現α-1前広場）、地下道延長などの整備が進められました。当時、市内軌道線は駅前を横切っていましたが、現在は富山駅に乗り入れ、2020年度には富山ライトレールとの接続が予定されています。



1980年代



2017年

« 富山駅前 (CiC) »

戦後マーケットの面影を残していた須田ビルが1991年に解体され、翌年、跡地に商業施設「富山ステーションフロントCiC」が開業しました。現在、各種テナントと行政サービス窓口が入居する複合ビルとして市民に利用されています。



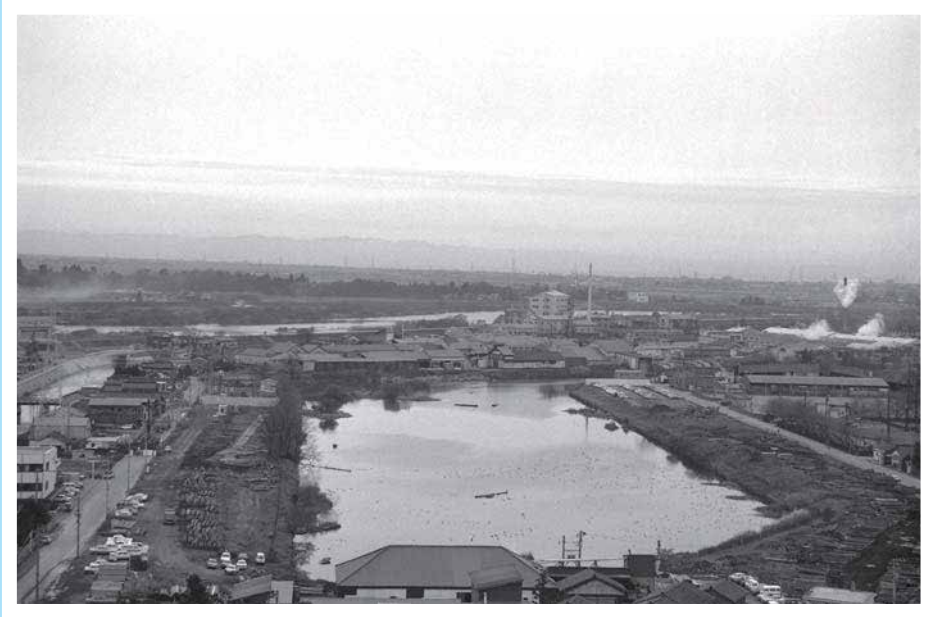
1980年代



2017年

《 富山駅北 》

1980年代頃の駅北地区は、再開発が進む駅南に比べて地味な印象がありましたが、ブルバールが整備され、富山ライトレールが走り、オーバードホールやアーバンプレイスがたち並ぶ都会的な街区に生まれ変わり、富山市の新しい「顔」となっています。



1980年代



2017年

« 富岩運河環水公園 »

富岩運河環水公園のあるエリアは、1990年代前半まで、運河を航行する船が停泊する「舟だまり」と呼ばれていた一角でした。市民に身近な都市公園として生まれ変わった現在は、富山市総合体育館が整備され、カフェ、レストランなども誕生しています。



1970年代



2017年

《 新庄・荒川交差点 》

この道路は現在、国道41号ですが、撮影当時は国道8号でした。1974年に富山高岡バイパスが開通するまでは、多くの車両が行き交う動脈路線でした。電線地中化や歩道のカラー舗装が進められ、すっきりとした景観となっています。



1960年代



2017年

《 桜橋通り 》

現在はオフィス街となっている桜橋通りですが、撮影当時は、戦災を耐え抜いた電気ビルの他に大きなビルは少なく、空き地も広がっていました。建設中の建物は第一生命ビル。軌道敷の石畳は、今はコンクリートに変わっています。



1980年代



2017年

« 上本町 »

西町交差点を中心に、富山西武や富山大和、ユニーといった大型商業施設が集まっていた。現在は「まちなか居住推進事業」を受けて大型集合住宅が立地し、日常生活に必要な機能が揃った快適な居住エリアとしての魅力を備えています。



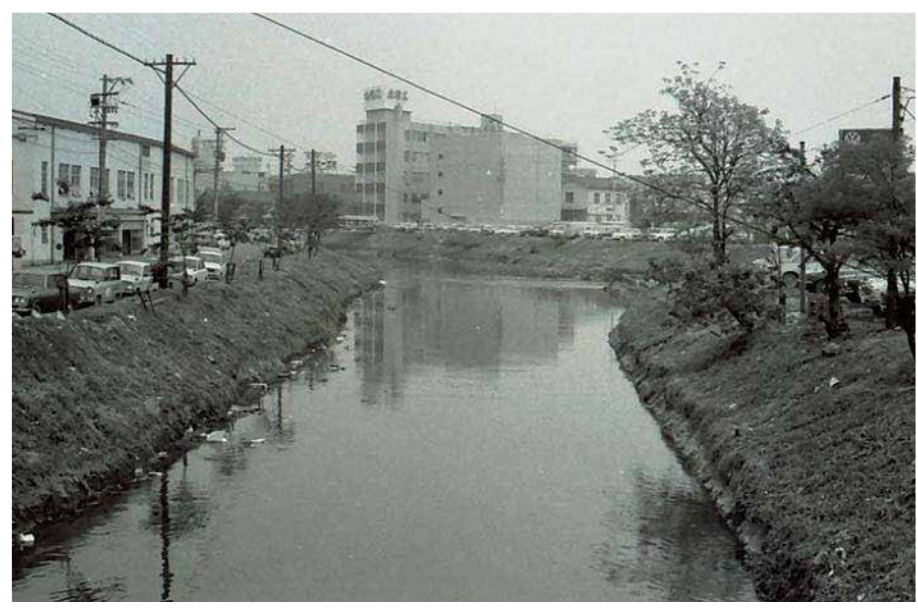
1980年代



2017年

« 荒町電停前 »

写真右手前にはカラー舗装用ブロックが置かれています。電停には西町アーケードの完成(1988年)を記念したラッピング広告車両が停車中です。現在は、セントラム(2009年導入)、サントラム(2010年導入)といった低床車両も運行しています。



1960年代



2017年

« 桜橋から東田地方 »

護岸工事が行われる以前の松川はごみも多く、けっして美しいとは言えない景観でした。現在は岸辺の桜並木も大きく育ち、春になると見事な花を咲かせて目を楽しませてくれます。撮影地点の桜橋は、1999年に国の登録有形文化財に登録されました。



1960年代



2017年

《 桜橋詰から東田地方 》

桜橋と宮下橋を結ぶ松川左岸。モータリゼーションが急速に進展したこの時代には、いたるところで路上駐車車両があふれる様子が見られました。現在、松川両岸の道路は一方通行路となり、景観を楽しみながら安全に散策できる遊歩道が整備されています。



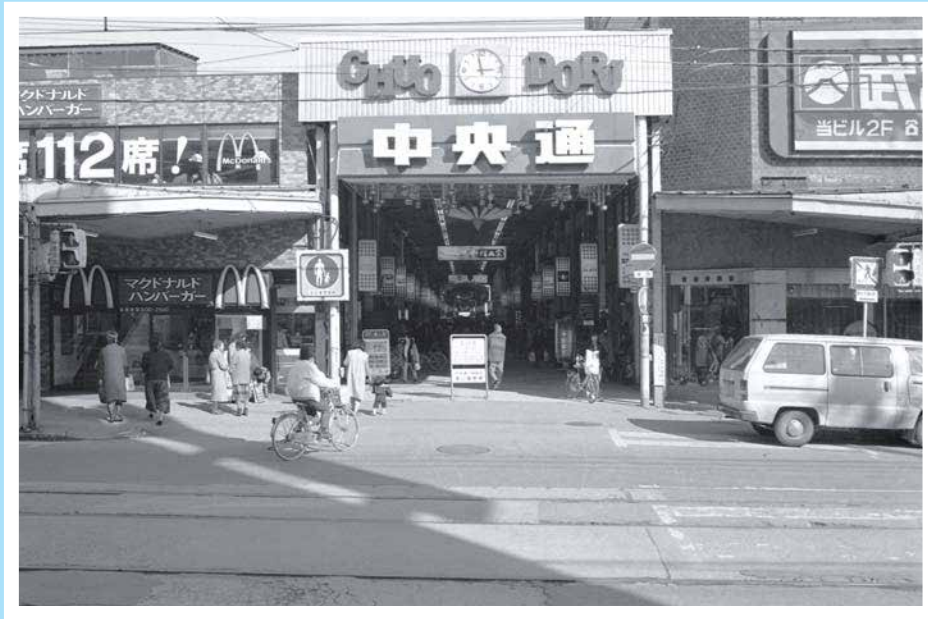
1990年代



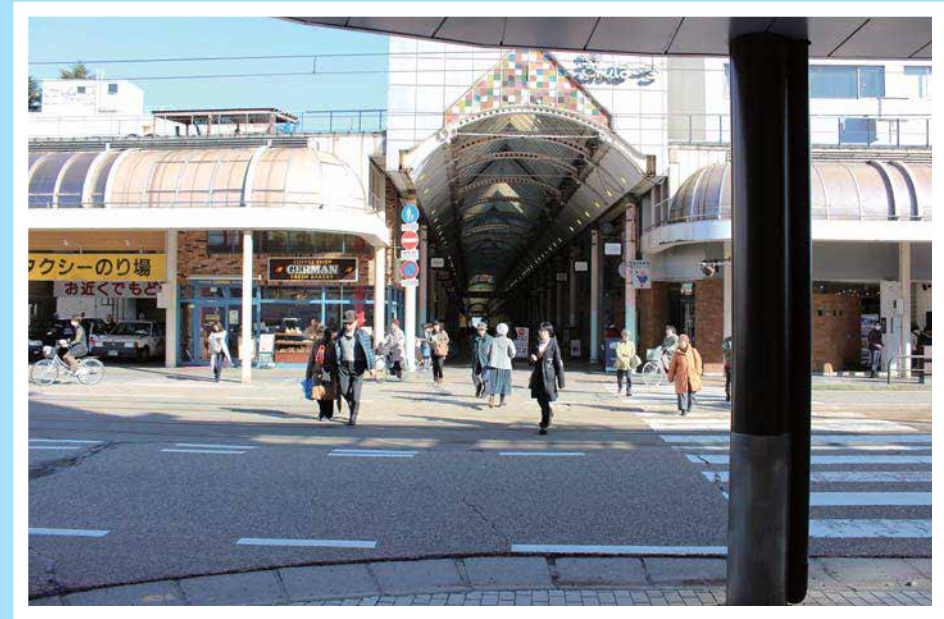
2017年

《 富山大橋 》

当時、片側1車線の富山大橋では交通渋滞が常態化していました。2006年から2012年にかけて行われた架け替え工事によって、車道の2車線化、市内軌道線の複線化、歩道の拡幅が実現し、現在は立山連峰を眺めながら快適に通行できる橋となっています。



1990年代



2017年

《 中央通り 》

中央通りは1987年にアーケードとカラー舗装をリニューアルし、このとき「さんぽ〜ろ」の愛称が生まれました。2013年、撮影地点の付近に市内軌道線中町(西町北)電停が設置され、本線と環状線の乗継停留場として利用されています。



1960年代



2017年

《 中央通り 》

1957年、初代アーケードが完成した頃の中央通り。現在、てるてる亭のある場所には、1946年に開館した富山映画会館（後の中劇、TOYAMA109ビル）があり、多くの観客で賑わっていました。昭和30年代の中心商店街には10を超える映画館がありました。



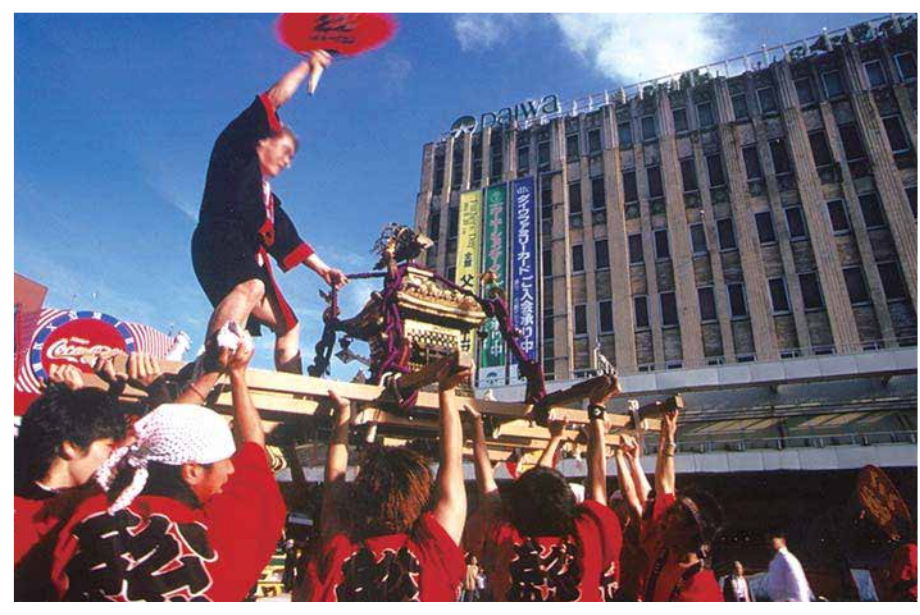
1970年代



2017年

《 総曲輪通り(西口) 》

旧字体の「総曲輪」の文字や旧型電話ボックスが時代を感じさせる総曲輪通り西口。
2007年、商店街南側に総曲輪フェリオ、グランドプラザがオープンし、また2016年、撮影
地点側にはシネコンやホテルなどが入るユウタウン総曲輪がオープンしました。



2000年代



2017年

« 西町 (現TOYAMAキラリ・旧富山大和前) »

毎年5月31日～6月2日に行われる山王祭では、勇壮な神輿が街を練り回します。2003年からは、女神輿や男裸神輿も登場し、旧富山大和前などで祭りを盛り上げました。西町交差点にはTOYAMAキラリや集合住宅ビルが誕生し、景色も様変わりしています。



1980年代



2017年

《 西町（富山市内軌道線旧西町電停付近） 》

西町交差点東側の堤町通りには市内軌道線西町電停があり、東部線（1928～1972年運行）や山室線（1961～1984年運行）の電車が発着していました。写真右上の北陸銀行本店（1961年竣工・国登録有形文化財）は、今も当時の姿を残しています。



1960年代



2017年

« 城址公園前交差点付近 »

城址公園前交差点にあった富山市公会堂は、富山産業大博覧会(1954年)の会場として建設され、1997年の閉館まで、音楽や演劇、チンドンコンクールをはじめとする公演・催事が行われていました。写真右端にはかつての時計塔の姿も見えます。



1960年代



2017年

« 城址公園前から大手町 »

大手町通りには、富山市民病院や富山市保健所がありました。1989年、病院跡地に富山市民プラザが開館し、大手モールが整備されました。保健所跡地は富山国際会議場(1999年)となり、市内軌道環状線(2009年)をセントラムが走るようになりました。



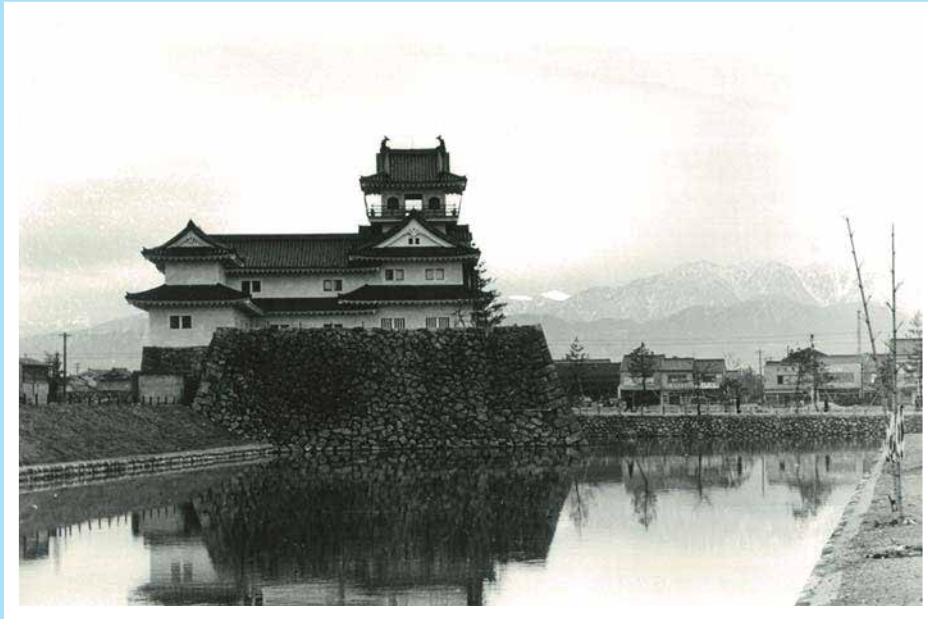
1990年代



2017年

« 富山国際会議場から丸の内方面 »

1998年から富山城址公園の再整備事業が進められました。県道富山高岡線沿いにあった建物が移転したことで、道路から城址への視界が開けました。現在ここを走るセントラムの車窓からも、城や石垣、濠や樹木の美しい姿を見ることができます。



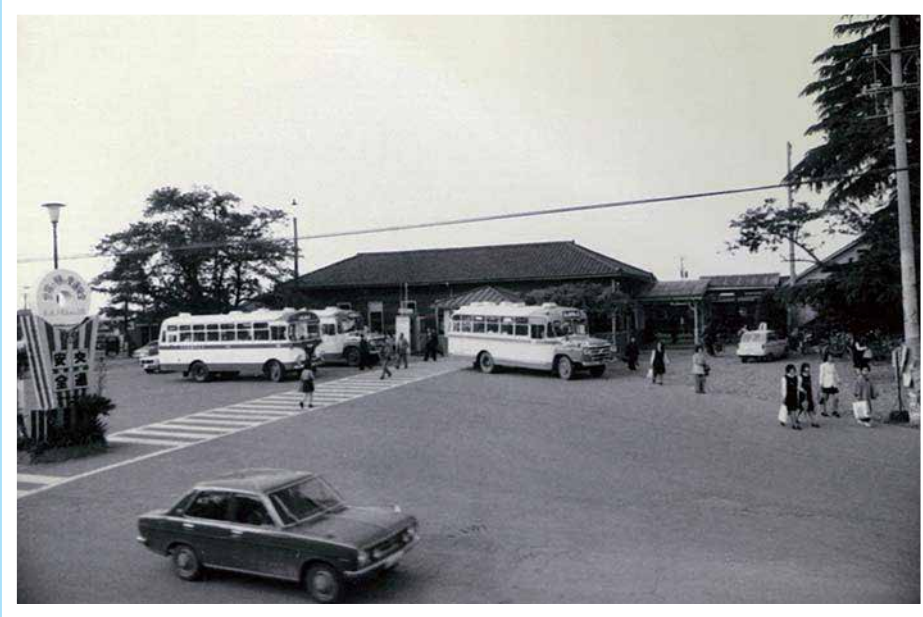
年代不明



2017年

« 富山城址から総曲輪方面 »

戦災復興を記念して1954年に開催された富山産業大博覧会では、メインパビリオンとして模擬天守が建設されました。その後、郷土博物館として活用され、今も富山のシンボルとして市民に愛されています。2004年には国の登録有形文化財に登録されました。



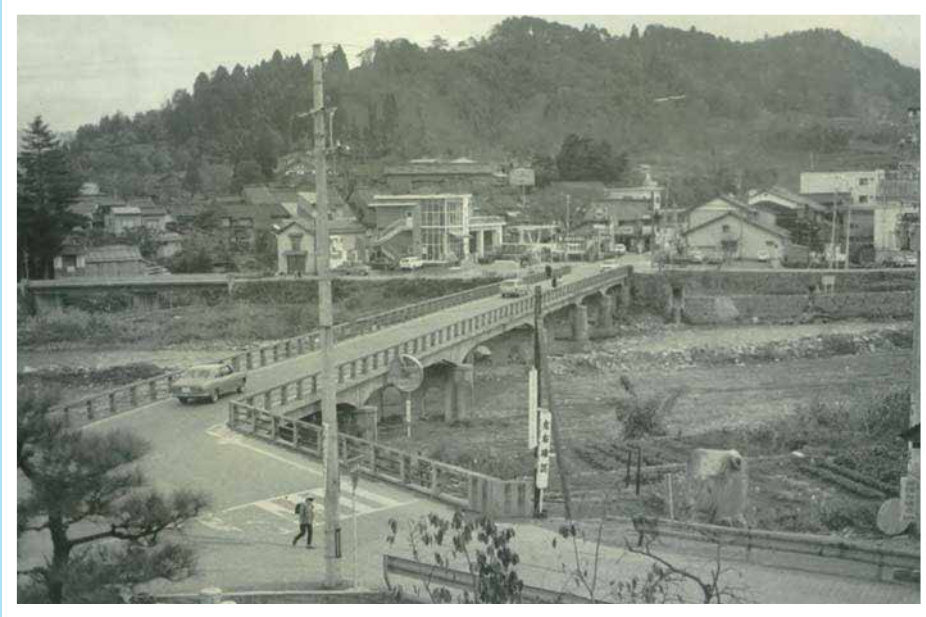
1960年代



2017年

« 越中八尾駅 »

1927年、飛越線（現高山本線）が開業し、越中八尾駅が設置されました。1898年築の旧七尾駅を移築したモダンな駅舎は、補修を重ねながら、120年後の今も現役です。駅前にはボンネット型とキャブオーバー型のバスが並んで停車している姿も見えます。



1960年代



2017年

« 八尾十三石橋 »

八尾町を流れる井田川に架かる橋。おわら風の盆の時期には、多くの観光客がこの橋を渡って旧町を訪れ、優雅な踊りを楽しみました。1935年に架けられた旧橋が老朽化したため、現在、2020年頃の完成を目指して架け替え工事を進めています。



1960年代



2017年

« 八尾眼鏡橋 »

町並みを縫って細い坂道が続く八尾町の旧町地区。自動車が急増した1960年代には、その細い道を多くの車両が往来し、しばしば渋滞が発生していました。現在は、旧町を迂回するバイパスが整備され、古い町並みには落ち着いた佇まいが戻ってきています。



1980年代



2017年

《 婦中速星交差点 》

婦中町速星の中心部を通る旧国道359号は「音川線」と呼ばれ、富山市と砺波方面を結ぶ幹線道路でした。1987年に婦中大橋、19■■■年に速星大橋が開通し、町の南側をバイパスが通るようになると、交通の流れは大きく変わりました。



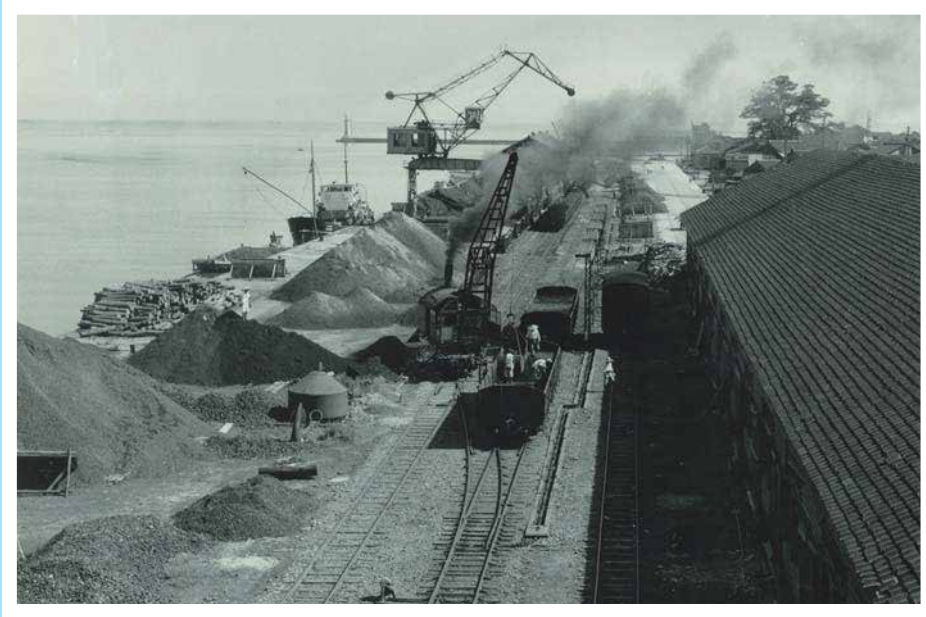
2000年代



2017年

« 岩瀬立山連峰を望む古志の人魚像 »

岩瀬運河に架かる短い鉄橋。2006年3月までこの橋を旧富山港線の「クモハ475」が渡っていました。今は、同じ橋を渡るポートラム車両の姿を見ることができます。運河に面した岩瀬カナル会館前からは、富岩運河水上ラインのクルーズ船も発着しています。



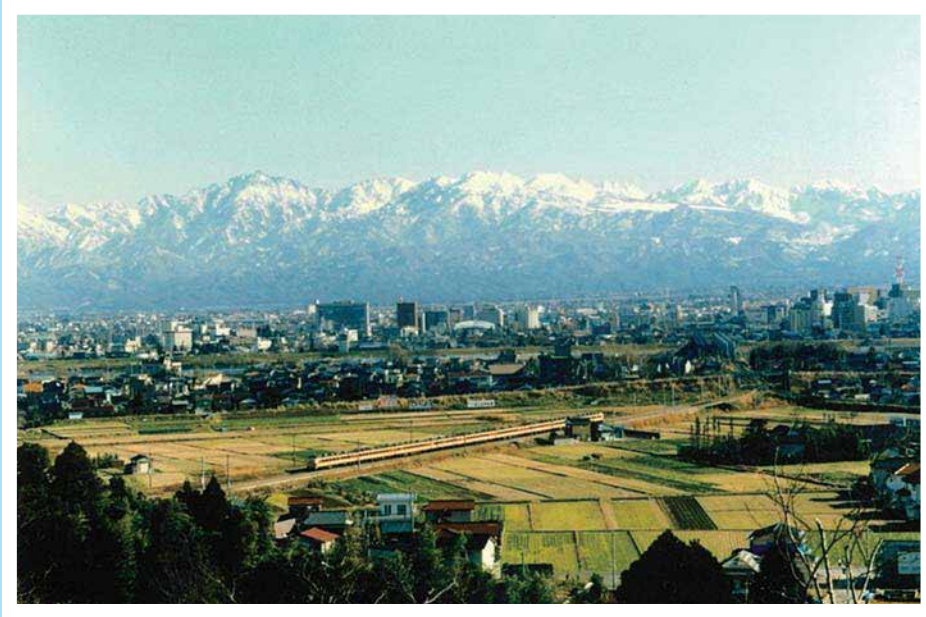
1950年代



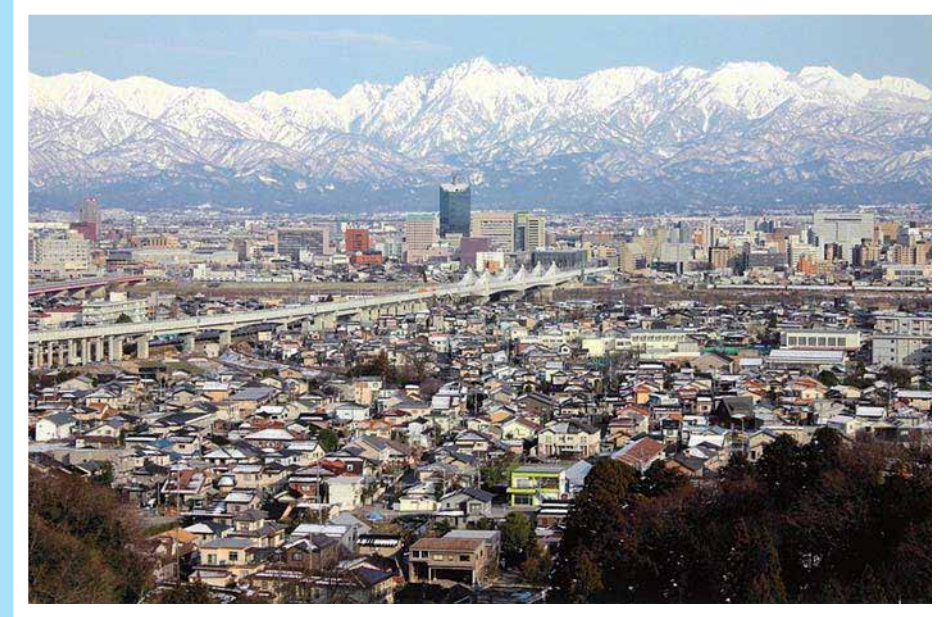
2017年

《 富山港岩瀬埠頭 》

戦前期から富山港には、貨物を工業地帯へ輸送するための貨物支線が敷設されていました。富山港線大広田駅と岩瀬埠頭の岸壁を結んだこの支線は1986年に廃線となり、跡地は現在、臨港道路や緑地、富山港展望台として利用されています。



1980年代



2015年

« 呉羽山展望台 »

撮影当時の1980年代前半、富山の市街地に高層の建物が建ち始めました。北陸新幹線や富山北大橋はもちろんまだなく、呉羽山の麓には田んぼが残っていました。現在、田んぼだった土地の多くは宅地になり、富山駅周辺には高層ビルが林立しています。



0000年代



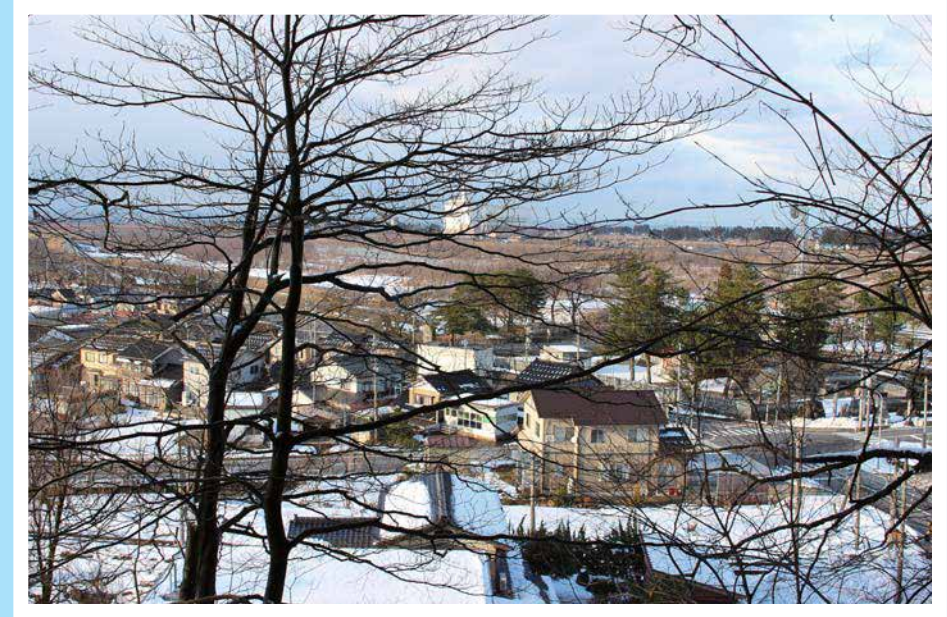
2000年代

《 東岩瀬駅 》

富山ライトレール東岩瀬駅には、1924年、富岩鉄道の「越中岩瀬駅」として開業した当時の木造駅舎が残されています。現在の駅名となったのは1950年で、このとき、北陸線（現あいの風とやま鉄道）の同名駅が「東富山駅」と改名されました。



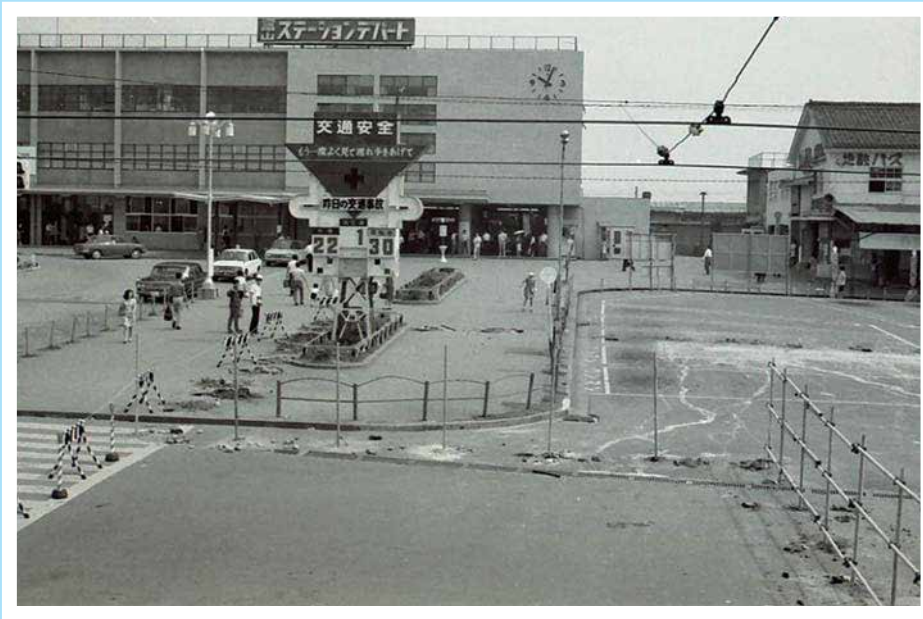
0000年代



2015年

《 常西公園付近 》

常願寺川左岸を流れる常西合口用水には1955年頃から桜並木が整備され、治水の歴史を刻む佐々堤や殿様林緑地とともに、豊かな水の恵みを感じられるプロムナードとなっています。2012年には、2つの小水力発電所が計100kWの出力で運転を開始しました。



1960年代



2017年

《 富山駅前 》

1953年に開業した旧まると百貨店（富山ステーションデパート、後にとやま駅特選館）は、旧富山駅ビル内で2011年まで営業していました。2015年、北陸新幹線開業に合わせて、富山の特産品を集めた新しい商業施設「とやマルシェ」がオープンしました。



1980年代



2017年

« マリエ前バスターミナル »

当時、富山駅周辺の路上には放置自転車があふれ、歩行者の安全な通行が妨げられていました。現在、駅周辺には、4か所の市営駐輪場と4か所のシクロシティ貸し出しステーションが設けられ、安全で快適な歩行者動線が確保されています。



1980年代



2017年

« 富山駅前 (CiC南側) »

現在のCiCビル裏手、旧須田ビル南側には居酒屋などの飲食店が軒を連ねる界隈があり、勤め帰りの人々や観光客・登山客などで賑わっていました。ここから県庁前公園へと続く道沿いには今も多数の飲食店が集まり、多くの人たちで賑わっています。